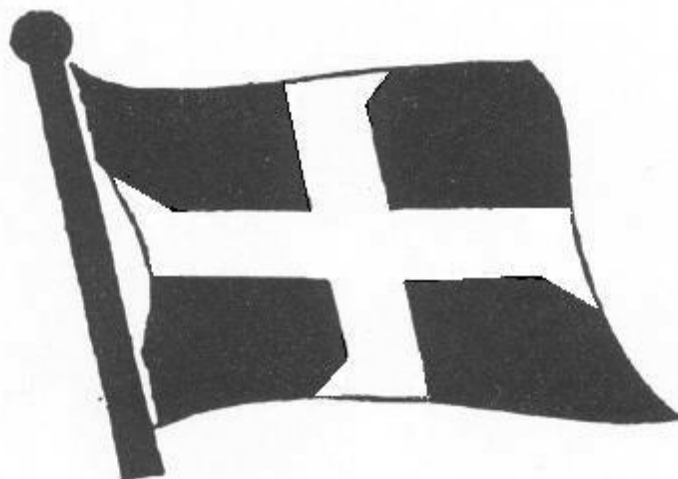


蒼穹 NEWS

NO.9

関西学生駅伝・京都駅伝総括号

令和5(2023)年 12月 8日発行



—目次—

- ①長距離パートチーフ挨拶・監督挨拶
- ②関西学生駅伝結果
- ③関西学生駅伝総括
- ④京都駅伝結果
- ⑤京都駅伝総括
- ⑥その他ご報告

① 長距離パートチーフ挨拶・監督挨拶

《4回生長距離パートチーフ挨拶》

平素より京大陸上部をご支援いただき、ありがとうございます。

去る11月18日、京丹後地方で行われました第85回関西学生駅伝において、京都大学は6位を目標に挑みましたが、9位という結果に終わりました。

終始ターゲットとしていた同志社大と競り合い、6位を射程圏内に収めながらレースを進めることができていましたが、終盤に追い上げてきたびわこ学院大と神戸大にかわされ、逃げ切られる結果となりました。京大も個々のレベルを上げ、当日も大きなミスなく襷を繋ぎ続けることができましたが、関西長距離界のレベルが過去になく上がっていることを痛感させられた今回の駅伝でありました。

来年以降は、長距離を牽引してきた現M2代が抜け、より厳しい戦いが続きます。しかし、多くの学部生がこの1年で大きく力を伸ばしたこともまた事実です。とくに今回の丹後駅伝で、格上相手に引けをとらない走りを見せてくれた稲田、照山(ともに2)には、経験を活かしてチームを引っ張っていくことが期待されます。来年の伊勢予選は、出場のための記録審査からボーダーライン上での戦いが予想されますが、力を合わせて乗り越えていってほしいと思います。

長距離は斎藤(3)チーフに代替わりし、いよいよすべての幹部が3回生となり部を引っ張っていきますが、陸上部および長距離競歩パートへの変わらぬ温かいご声援をどうぞよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部4回生長距離パートチーフ 尾原翔

《3回生長距離パートチーフ挨拶》

今年の長距離の集大成ともいえる関西学生駅伝、そして新体制として最初の対校戦となる京都駅伝が先日行われました。ご多忙の中応援に駆けつけてくださった皆様、激励の言葉をかけてくださった皆様、誠にありがとうございました。

京都駅伝の目標は同志社大学Bまたは龍谷大学Bに勝つこと、昨年の京都大学Bのタイムを上回ることとしていましたが、いずれも達成することはできませんでした。1区、2区で先行し、3区、4区で粘り、5区、6区で追いつくという予定通りの試合運びとなりました。1区、2区は期待以上の走りをしてくれ、それ以外の選手も大学入学後初の駅伝、対校戦となる選手もいる中で期待通りの粘りを見せてくれました。しかし、同志社大学Bには一度も前に出ることが出来ず、龍谷大学Bには序盤先行したものの最後追いつくことができませんでした。両大学は来年以降も対校戦の場で戦っていく相手ですが、そのBチームにも勝てなかったことで、根本的に実力不足であることを示すことになってしまいました。

長年様々な面でチームを引っ張ってきた現M2回生が引退し、来年以降も関西

の上位を目指して戦い続けるためには、今回京都駅伝ではサポートに回ったメンバーも含めてチーム全員が大きく成長する必要があります。冬季練習ではこれまでの取り組みを見直し、来シーズン全員が強くなった姿をお見せできるよう努めてまいります。

蒼穹会の皆様におかれましては、日頃より多大なるご支援、ご協力をいただきありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。結果でお返しできるようチーム一同精進していく所存ですので、今後ともよろしく願いいたします。

京都大学陸上競技部3回生長距離パートチーフ 斎藤優成

《監督挨拶》

去る11月18日(土)に、京都府丹後地域にて関西学生駅伝が行われました。8位に終わった全日本駅伝予選会からの成長を示すべく6位を目標に挑みましたが、結果として9位に終わりました。これにより来年の伊勢予選は記録審査から出場を争うことになりました。

6月の伊勢予選時から大きく自己記録を伸ばした選手が多い中、むしろ順位を落とす結果となりました。自分たちの成長は前提として、ライバルたちの成長も上回る圧倒的な取り組みが必要であると感じます。客観的にのみ見れば長年チームの柱となってきた上回生が去る難局が訪れていますが、各選手にはその下馬評を大きく覆す強い反骨心・向上心を持ちこの冬大きく成長してくれることを期待します。

また、12月3日に京都駅伝が行われました。丹後駅伝とのメンバー重複が一人もなく、まさに新チームの門出といった試合でした。良くも悪くも実力通りの結果であり、試合で力を発揮する能力があることは改めて確認できた上、来シーズンの目標と現状の距離感を把握できたと思いますので、引き続き実力を高めていってほしいと思います。私は今大会をもって監督を退任しOBの立場となりますが、今後も京都大学陸上競技部の躍進を願い見守っていきたいと思います。

最後になりますが、蒼穹会の皆様におかれましては日頃より多大なるご支援、ご声援を賜りまして誠にありがとうございます。今後とも変わらぬご支援、ご声援のほどよろしくお願い申し上げます。

京都大学陸上競技部監督 仲村快太

② 関西学生駅伝結果

第85回関西学生対校駅伝競走大会

令和5年11月18日(土)

京都府丹後地域

順位	チーム	記録
1	京都産業大学	3:48:08
2	関西大学	3:49:34
3	立命館大学	3:49:56
4	関西学院大学	3:50:28
5	大阪経済大学	3:50:38
6	びわこ学院大学	3:57:45
7	同志社大学	3:58:24
8	神戸大学	3:59:40
9	京都大学	4:00:16
10	龍谷大学	4:01:04
11	大阪大学	4:01:34
12	大阪学院大学	4:02:03
13	大阪国際大学	4:04:43
14	大阪公立大学	4:04:44
15	佛教大学	4:04:57
16	近畿大学	4:05:06
17	関西福祉大学	4:05:28
18	摂南大学	4:05:51
19	大阪体育大学	4:09:08
20	神戸学院大学	4:10:12
21	放送大学関西	4:11:10
22	甲南大学	4:17:28
OP	青山学院大学	3:50:12

③ 関西学生駅伝総括

○第1区

足立舜(M2) 30:19 区間8位

1区は足立(M2)が出走し、終始先頭集団でレースを進めた。ラスト1km手前の仕掛けに対応できず遅れるも、結果的には先頭と30秒の差で、6年間苦楽を共にした鈴木(M2)へと襷をつないだ。虎視眈々とレースを進める冷静さと、最後はふらふらしながらも1秒を削り出す意地とが見られた、足立らしいラストランとなった。
(三嶋)

○第2区

鈴木洋太郎(M2) 37:13 区間6位

2区を託されたのは鈴木(M2)である。8位で襷を受け取ると、順に大阪国際大、同志社大を捉え抜き去る。中間点までに大阪経済大、関西大も捉え、一時は2位集団に10秒程度まで迫る4位まで順位を押し上げた。しかし得意であったはずの下り坂で勢いに乗り切れず、大経大・関大には逆に大差をつけ返されてしまった。2区終了時で7位と約30秒差での6位と、当初の予定よりも稼ぐことができず、とりわけ4区以降に負担を強いる厳しい展開となった。
(伊藤)



(「エース」として力走する鈴木(M2))

○第3区

照山潤(2) 18:05 区間8位

3区には照山(2)が出走した。ターゲットであった同志社に前半で追いつかれ一時は先行される苦しい展開であった。しかし冷静にスパートを決め、なんとかラスト1kmほどで同志社を抜き返し、そのまま第3中継所へ。1,2区のリードを使い切る形にはなってしまったものの事前ランキングを大きく上回る区間8位、6着で襷を渡した。(斎藤)

○第4区

稲田正裕(2) 34:31 区間13位

6位を争う同志社大の原口が、大幅なハイペースで入るも、自分のペースで冷静に入る。中盤以降の登りでは、見通しがよく前の同志社大学が見えているけれど単独走でなかなかつまらない。さらに終盤は激しい雨に襲われる厳しい展開となった。ただ、なんとか最後まで粘りきり、同

志社原口とトラックでの PB 差以内に抑え、最低限の役割をこなした。
(池田)

○第5区

柴田栗佑(M2) 14:25 区間7位

最短区間である5区は柴田(M2)が担当した。前を走る6位の同志社大とは52秒差、8位のびわこ学院大とは56秒差の7位で襷を受け、前を追った。嵐の中、単独走を強いられる厳しい展開であったが、下りを利用して入りの1キロを2分48秒で入り、同志社大を視界に捉えた。その後は強風とあらわれに煽られながらも、3分6秒から13秒のペースを刻んだ。怪我を押しての出場となったが、同志社大とは41秒まで縮め、びわこ学院大には1分25秒差をつける力走を見せ、安本へ襷を託した。(柴田)



(怪我を抱えつつ好走した柴田(M2))

○第6区

安本元虎(M2) 33:00 区間12位

6区はM2の安本が出走した。冷たい雨風が吹き荒れる厳しいコン

ディションの中、6位同志社と41秒差の7位で襷を受け取った。起伏の多いコースに感覚を合わせることに苦戦したものの、チームの期待を背負い裏エース区間で健闘し、有終の美を飾った。(宮澤)

○第7区

原圭佑(4) 38:02 区間15位

7区を走ったのは原(4)。前を走る同志社大とは1'06秒差、後ろのびわこ学院大とは57秒差の7位で襷を受け取る。暴風雨の影響もあり、同志社大とは一時30秒差まで迫るも、5km付近でびわこ学院大に捉えられ、8km付近で神戸大にも捉えられ、順位を2つ下げる苦しい走りとなった。(原)

○第8区

尾原翔(4) 34:41 区間17位

最終区間の8区はパートチーフである尾原がつとめた。襷を受けた時点で京大は9位だったものの、6位びわ学との差は約1分、7位同志社との差は約40秒であった。懸命に走るものの強風に煽られて徐々に差を広げられてしまい、順位を返すことは叶わなかった。彼は今シーズン大きく成長した選手の一人であり、また、丹後駅伝は彼にとってパートチーフとしての最後の試合であった。それだけに彼自身のレースが厳しいものになってしまったことは悔やまれる。(江端)



(チーフとしてのラストラン尾原(4))

④ 京都駅伝結果

順位	チーム	記録
1	京都産業大学 A	2:15:29
2	立命館大学	2:19:08
3	同志社大学 A	2:19:13
4	びわこ成蹊スポーツ大	2:22:38
5	明治国際医療大学	2:24:46
6	京都大学	2:26:28
7	佛教大学	2:26:30
8	京都教育大学	2:26:36
9	京都府立大学	2:33:23
10	滋賀大学	2:41:25
OP	大阪経済大学	2:18:54
OP	京都産業大学 B	2:18:58
OP	大阪国際大学	2:23:03
OP	同志社大学 B	2:23:15
OP	龍谷大学 B	2:25:29
OP	大阪公立大学	2:30:10
OP	大阪商業大学	2:31:07
DQ	龍谷大学 A	-

⑤ 京都駅伝総括

○第1区

三嶋友貴(3) 32:32 区間7位

1区は三嶋(3)が出走した。7kmまで先頭集団でレースを進めるもそこからの仕掛けに対応できず、先頭から1分、ターゲットとしていた同志社Bからも40秒遅れて服部(2)に襷を渡した。目標タイムをクリアして最低限の仕事を果たした一方、上位勢との力の格差を痛感させられる厳しい結果となった。(三嶋)



(エースとしての期待がかかる三嶋)

○第2区

服部来羅(2) 19:03 区間5位相当
(走路ミスにより正式区間順位なし)

2区は服部(2)が出走した。大学初の駅伝となった。1km手前で京産大Bに追いつかれるとそこから並走が続いた。大きくペースを落とすことはなく、5kmまで走る。ラスト1kmで多くの選手に抜かれるも、ついていくことができない。ラストの弱さがかもろに出たレースとなった。事前に設定されていたタイムは上回ったもの

の、実力の無さが露呈した。(服部)

○第3区

千代田景悟(2) 25:24 区間8位

3区 7.5km を任された千代田(2)は区間8位の25'24"で走った。目標達成に貢献する走りは出来ず同志社Bに遅れること1'49"、龍谷大Bに遅れること52"差で襷を繋いだ。

本人としても悔しい駅伝デビューとなっただろう。(千代田)



(成長著しい2回生千代田)

○第4区

高山兼輔(3) 25:11 区間7位

4区を走ったのは対校戦出場が初となる高山(3)。中継時点で同志社Bと1分49秒差、龍谷Bと52秒差、オープンチームを入れて13位で襷を受け取った。序盤の上り坂は京教の後ろにつき流れを作った。5km付近で京教とも離され苦しい展開となった。その後ペースを落とさず粘りを見せたものの繰り上げスタートと

なり、襷をつなぐことができず、課題の残るレースとなった。(高山)

○第5区

伊藤寿真(2) 16:54 区間6位

5区を走ったのは大学駅伝初出場の伊藤(2)。4区の高山(3)から22秒差で僅かに襷が繋がらず、他の大学と同時にスタートした。序盤からハイペースで集団から飛び出し、佛教大を捉え突き離れた。しかし中盤でペースダウンし、目標としていた同志社大 B、龍谷 B との差を思うように詰められなかった。持ち味のスピードやロード適正を活かしての今後の駅伝での活躍を期待したい。(伊藤)

○第6区

梅原佑介(3) 27:24 区間8位

ターゲットである同志社 B や龍谷 B を含む 10 校ほどで繰り上げスタートとなった。同志社 B には序盤から離されてしまい、佛教大、明治国際医療大、龍谷 B と集団を形成してレースを進めていたが、5km 地点までの登り坂で離されてしまい、ラスト 2km の下りで追い付こうとし、なんとか龍谷 B は捉えたものの、脚が残っておらず同志社 B などとの差は開いてしまった。京産大グラウンドへ向かう坂はまさに壁のようであったが、京大の大応援のおかげでなんとか登りきることができた。タイムとしては 26 分台を狙っていたものの、27' 24 というタイムとなり、個人目標としても及ばず悔しさが残るレースとなった。(梅原)

* 区間順位は全て OP チームを除いた順位となっております。ご了承ください。

⑥ その他ご報告

関西学生駅伝及び京都駅伝に応援に駆けつけてくださった蒼穹会の皆様におかれましては、ご多忙のところまことにありがとうございます。直接お礼を申し上げられなかったため、この場を借りて感謝申し上げます。

今回の京都駅伝をもちまして、今年度の対校戦は終了となりますが、来シーズンも変わらぬ温かいご声援及びご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



蒼穹ニュース 令和5年度 第9号
令和 5年 12月 8日発行

発行所:京都大学体育会陸上競技部
編集者:白星祥吾・田中颯真・平松藍(副務)
特別協力:阿部陽葵・高山兼輔・平林里和子(学連員)
写真担当:伊藤寿真・川瀬稔己・照山潤(写真係)

陸上競技部 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/>
陸上競技部記録 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku.htm>
関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>
メールアドレス shirahoshi.shougo.56f@st.kyoto-u.ac.jp (白星)